

1. はじめに

本研究会では例年、保健体育指導者の資質向上のために保健体育指導法講習会を開催している。本年度は、玉名市立玉陵中学校の三次圭介氏を招聘し、初めてバドミントンラケットを握る生徒でも興味を持って意欲的に取り組むことができるような指導方法を提供した。ラケットを握らない基本的な動きから簡易ゲームまで、実際の単元計画の流れを想定し、バドミントン経験者だけでなく全ての指導者が要点をおさえた指導ができるようにした。

2. 講習会の概要

- (1) 期 日 令和5年7月27日(木)
- (2) 会 場 玉名市総合体育館 メインアリーナ
- (3) 内 容 バドミントン テーマ「バドミンントンの授業で活かせる効果的な指導方法」
①シャトルやラケットを使った導入 ②基本技能 ③ゲーム ④質疑応答



3. 受講者の感想

- 基本的な技術を実際に動きながら学ぶことができたので大変ありがたかった。何よりも楽しむことができた。
- 模範もあり、とてもわかりやすく活動がしやすかった。またコツを言語化されており、今後の指導の参考になった。
- バドミンントンの細かい動きを具体的に提示していただいたので、生徒への声かけにも活かすことができると思った。
- 長年経験されている方でしたので、ポイントを押さえた短いコメントがとても良かった。

4. おわりに

質疑応答でもあったように、シャトルがラケットに当たらず苦手意識を持つ生徒もいる。そのような中で、生徒が少しでもバドミンントンに興味を持ち「やってみたい」「やってみよう」と思えるような工夫が大事であるということを知ることができた。受講者も最初は楽しみながら活動していたが、後半のゲームでは真剣に勝負している姿が見られ、楽しみながらも達成感を味わうことができた様子であった。このように授業展開をしていくことで、主体的・対話的で深い学びになっていくということをあらためて感じた講習会であった。